

授業科目名（科目の英文名）	区分・【新主題】／（分野）
国際健康コンシェルジュ養成講座 (International health concierge training course) *大分を創る科目	全学共通科目 【文化・国際】／（総合）

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜限	担当教員
選択	1	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前期	集中	大下（医），西田（医），工藤（保健管理センター）， 包（経），濱中（大分県立看護科学大学） 内 線： E-mail：oshita@oita-u.ac.jp（大下）， blianqun@oita-u.ac.jp（包）， udou-yoshikuni@oita-u.ac.jp（工藤）， ynishida@oita-u.ac.jp（西田）， hamanaka@oita-nhs.ac.jp（濱中）

【授業のねらい】

なんらかの病気・外傷等に罹患した訪日観光客に対し、速やかな応急処置と疾患の重症度の判断が可能となる医学的な知識を学びます。この医学的な対応知識を踏まえて、体調を崩した訪日観光客（車いす利用者も含む）に対し、病院、ホテルなどで使用する英語、中国語の基本的表現を学び、助けを必要とする外国人に英語や中国語で積極的に話しかけることができる人材の育成を目的とします。

【具体的な到達目標】

習得する専門知識（Contents）とそれを活かした能力（Competency）は、次の点である。

1. 病気・外傷の重篤度・緊急度の判断が可能となり、また必要な応急処置できる。
2. 外国語（英語、中国語）の基本的な表現を使って、「身体症状を質問し、適切な指示を与える」ことができる。社会人との協働講義の中でのばす能力（Competency）は、次の点である。
3. 多様な年齢、性別、人生観、仕事観を持つ社会人と上記の会話訓練をすることで、自ら他人と「話す」状況をつくるきっかけを創出できる。

【授業の内容】

1. 「科学と医学」に関する基本的な知識を得る。
2. 成人によくある病気に関する知識を得る。
3. 婦人科疾患と産科疾患の知識を得る。
4. 心肺蘇生法（胸骨圧迫、人工呼吸）やAEDを用いた除細動による一次救命処置の手順を習得する。
5. 体調を崩した訪日観光客に呼びかけ、応答する基本的英語表現を知り、発話練習を行う。
6. 日本人が国外で体調を崩した時に、ホテル、公共交通機関、病院などで使用する基本的英語表現を知り、発話練習を行う。
7. 中国語の発音規則と発声の仕方を学び、その発音練習を行う。
8. 体調を崩した訪日観光客に呼びかけ、応答する基本的中国語表現を学び、発話練習を行う。

【学生がより深く学ぶための工夫】

小テスト、知識の定着・確認を図るレポート、ロールプレイ

【時間外学習】

【準備学修】事前に資料が配布された場合は、資料を用いて予習を行う。（4h） 【事後学修】授業で学習した内容や配布資料を用いて復習する。（10h）

【教科書】

なし。（講義の中で適宜資料を配布する）

【参考書】

講義において、適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

健康：筆記試験（25%）、レポート（75%）【目標1に対応】
語学：講義中に取り組む課題（100%）【目標2・目標3に対応】

【注意事項】

講義中に社会人、他大学の学生、他学部の学生とのグループワークを行うので、積極的にコミュニケーションをとるようにしてください。

【備考】